

第2領域 (その2)

「いかしつ守る環境活動者のグローバルな架け橋」

(持続的な人間活動と環境保全活動にかかわる人々の共通の理解と連帯の形成)

この領域は人々の生活と環境保全活動のバランスを考えることを目的としています。

大学と地域と農のネットワーク

＜研究・活動名＞学生と地域市民で取り組む地域バイオマス活用による循環型社会の研究・実践

＜代表者／団体＞早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授 紙屋雄史
NPO法人早稲田環境市民ネットワーク

地域の里山や農業の課題に大学が取り組むことで、新しい地域との関係創造につながる社会モデルを構築するために、埼玉県本庄市に大学キャンパス周辺の実習農場を整備し、地域のバイオマスを活かした農業を実践するとともに、実験的なエネルギー作物の栽培や、地域の希少種の保全などの活動に学生の参加、環境教育の機会を提供しています。

農業と農村の持続的発展を考える

＜研究・活動名＞農業と農村の持続的発展を考える（研究する）プロジェクト

＜代表者／団体＞早稲田大学人間科学学術院教授 柏 雅之
学生NPO農楽塾

普段日常生活の中で土や農業というものに触れることの少ない都市部の人々にその土と触れ合う機会を提供して考えてもらうために、

- ①大隈庭園で稲を栽培することにより、実際に土に触れてもらう
- ②バケツ稲を大学付近の商店会に配布や、近隣の幼稚園児への農作業を体験の提供など、地域との交流を図る
- ③農作業体験を通じて日本の農業の現状を学ぶため、国内の農村の訪問を行う
- ④学生の積極的な活動を引き出すため「泥んこバレー大会」の開催とその効果の分析をする

などを行いました。

右ページ写真 上下：早稲田農楽塾の活動（柏プロジェクト）
中：早稲田環境市民ネットワーク（紙屋プロジェクト）



アドバイザー・ボード

W-BRIDGE には本プロジェクトの趣旨にご賛同いただいた各界の専門家から構成されたアドバイザー・ボードが設置されています。研究領域・研究成果に対して随時助言をいただき、活動内容に反映しています。

(敬称略、五十音順)

- 池上清子 (環境と開発途上国問題の専門家)
- 大橋 力 (文明科学研究所長 / 芸能山城組主宰)
- 小畑秀文 (東京農工大学長)
- 白井克彦 (早稲田大学総長)
- 西岡秀三 (国立環境研究所特別客員研究員 / IPCCメンバー)
- 原 剛 (早稲田環境塾塾長)
- 松尾典子 ((株)NHK エンタープライズ エグゼクティブプロデューサー)
- 三村信男 (茨城大学教授 / IPCCメンバー)
- 渡辺弘之 (京都大学名誉教授)